

大学コンソーシアムひょうご神戸  
2022年度 第3回 国際交流委員会  
議事次第

日 時：2022年11月15日（火）持ち回り開催

回答期限：2022年12月 2日（金）

委員校：兵庫県立大学（委員長校）、神戸市外国語大学（副委員長校）、明石工業高等専門学校  
芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、  
聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、  
神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、  
神戸女学院大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、  
園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、姫路獨協大学、  
兵庫大学、兵庫大学短期大学部（計28校）

### I. 審議事項

1. 2022年度国際交流委員会事業自己評価の作成について (資料1)

標記に関し、中井理事長から各事業委員会に、参考資料のとおり依頼があった。

(資料1)に記載してある以下に取り組みの自己評価（緑の塗りつぶし部分）について、  
ご審議の程よろしくお願いいたします。

- ① 取組1：兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
- ② 取組2-1：学生海外派遣プログラム
- ③ 取組2-2：模擬国連演習（NMUN（National Model United Nations））

### III. 連絡・調整事項

1) 2022年度の国際交流委員会開催日程

第4回委員会 2月：2023年度 事業計画・予算（案）（メール審議）

第5回委員会 3月：2022年度 事業報告・決算（案）（メール審議）

以上

2022年11月吉日

大学コンソーシアムひょうご神戸  
事業委員会 委員長 各位

大学コンソーシアムひょうご神戸  
理事長 中井 伊都子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素は当コンソーシアムの活動に深いご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当コンソーシアムでは、各事業委員会にて実施頂きました事業について「自己評価」を作成していただき、その内容をもとに企画運営委員会及び理事会にて事業の継続・改善等を検討することとしております。

つきましては、当コンソーシアムの活動の更なる充実のため、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

敬具

記

1. 各事業委員会への依頼内容と提出期限について

依頼内容：2022年度事業の実施内容（結果）と自己評価の作成、提出

2022年度事業計画（添付1）に基づき、プログラムごとに実施内容（結果）と自己評価を作成してください。12月以降に実施予定のプログラムについては、進捗状況を具体的に記入ください。

提出期限：12月12日（月）正午

2. 今後のスケジュール

- (1) ひょうご産官学連携協議会の構成員である兵庫県及び経済団体（兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、兵庫県中小企業団体中央会）の意見聴取：12月
- (2) 第9回企画運営委員会による事業改善提案の検討：12月
- (3) 第6回理事会による事業改善提案の審議：1月
- (4) 各事業委員会へのフィードバックと2023年度事業計画・予算提出依頼：1月
- (5) 第11回企画運営委員会にて2023年度事業計画・予算検討：2月
- (6) 第7回理事会による2023年度事業計画・予算審議：3月
- (7) ひょうご産官学連携協議会にて、2023年度事業計画・予算審議：3月

(添付書類)

- ・添付1 2022年度 事業計画（事業委員会別）

以上

【問い合わせ先】大学コンソーシアムひょうご神戸事務局（担当：大濱・小畑）

電話：078-271-0233 メール：kanri@consortium-hyogo.jp

委員長校 : 兵庫県立大学

副委員長校: 神戸市外国語大学

委員校: 明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、  
 関西学院大学、聖和短期大学、芸術文化観光専門職大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸海星女子学院大学、  
 神戸大学、神戸学院大学、神戸国際大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、  
 神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、園田学園女子大学、園田学園女子短期大学部、  
 姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部 計28校

<目的>

「国際都市神戸」を有する兵庫県の大学・短期大学・短期大学部・高等専門学校が加盟する  
 コンソーシアムとしてグローバル人材育成を目指した事業を展開する。

<内容>

- 1、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業
- 2、学生海外派遣プログラム
- 3、模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))

<期待される効果>

- 1、兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業においては、学生が主体的に学ぶことによる  
 行動の変容、大学連携・産官学連携による留学生支援の新たな課題とニーズの取組促進  
 高度外国人材としての留学生の理解促進等の効果が期待される。
- 2、学生派遣プログラムにおいては、委員校が実施するプログラムを加盟校に開放し、  
 当該プログラムに興味を持つ複数の加盟校の学生がプログラムに参加して交流することで、  
 正課授業では得ることのできない経験とネットワークの構築が期待される。
- 3、模擬国連演習においては、大学が横断的に連携して実施することによる、地域内の学生間の  
 交流の促進と参加者の国際問題や国連システム等に対する理解の醸成が期待される。

課題⑤ 外国人留学生と日本人学生等の交流促進		予算額
取組1	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業	9,625,000円 * 受託事業収入
取組2-1	学生海外派遣プログラム	50,000円
取組2-2	模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))	0円

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組1)】

【⑤取組1】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)
【⑤取組1】活動指標	各年参加者数500名以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進
達成目標【⑤取組1】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)
課題を解決する取組概要【⑤取組1】	兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施
活動指標【⑤取組1】	各年参加者数500名以上

内容(結果)	<p>&lt;兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業&gt;                  大学連携による国際交流の拠点を、大学キャンパス外の地域社会に形成することで留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。</p> <p>1. 外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業                  ○学生組織構築活動TeamG-navi「ファンリテーション・プロジェクト演習」                  ・ファンリテーション力を身につける人材養成講座                  【実施】2022年5月～7月(計6回) 【定員】15名 【対象】日本人学生・留学生(N2以上)・社会人 【実績】145名                  ○大学等との連携による協働事業(加盟校等の教学協働プログラム)                  【連携予定】甲南女子大学・兵庫県立大学【実施】通年2～3回 【定員】20～40名 【対象】留学生・日本人学生 【実績】71名(2022年10月末現在)</p> <p>2. 高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート                  ○英語でのキャリアイベント                  留学生のキャリアイベントを開催(公益社団法人 関西経済連合会共催)                  【実施】2022年12月～2023年3月 【定員】30～50名 【対象】留学生 【実績】開催予定                  ○キャリアカフェ「Nada Global Village (NGV)」                  「自分を深める」・「視野を広げる」キャリアカフェ                  キャリア、ダイバーシティ&amp;インクルージョン、SDGs、文化・価値観・社会情勢、自己探求等をテーマに、                  インタラクティブなイベントを実施予定 【国際理解深まった】93.2%                  【実施】年間10回 【定員】各20名 【対象】留学生、日本人学生、 【実績】789名(2022年10月末現在)</p> <p>3. 防災教育「防災セミナー」                  兵庫国際交流会館の地域的特性を生かし、防災減災に備えるセミナー                  【実施】2022年12月～2023年3月未定年1～2回 【定員】30～50 【対象】留学生、日本人学生、社会人 【実績】開催予定</p> <p>4. 地域連携プログラム「英語村」                  大学生が企画し、中高生等を対象に英語を通じたコミュニケーションの楽しさや学びを提供。【国際理解深まった】100%                  【実施】2022年7～8月、12月 【定員】各20名 【対象】留学生・日本人学生・地域の小中高生など【実績】169名</p> <p>5. 留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備                  大学連携の特徴を活かした情報発信事業を行い、加盟校・関係団体と支援者間ネットワークを構築。【構築中】                  ※新型コロナウイルス感染症状況により、実施方法(オンライン・リアル・ハイブリッド)・プログラム内容の変更の可能性有                  【総括】11月末時点 累計参加者数:1174名</p>
--------	---

新しい試み等(事業計画に記載)									
事業収支	<table border="1"> <tr> <td>収入</td> <td>支出</td> <td>収支</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>9,625,000円</td> <td>5,152,504円</td> <td>4,472,496円</td> <td>10月末現在</td> </tr> </table>	収入	支出	収支	備考	9,625,000円	5,152,504円	4,472,496円	10月末現在
収入	支出	収支	備考						
9,625,000円	5,152,504円	4,472,496円	10月末現在						

自己評価	【対到達目標】	4	【対継続性】	4
	・コロナ禍の状況を注視しながら、イベント毎にオンラインの特性(国内外から多種多様な参加者を集める)と対面の特性(文化体験や参加者間の交流)を見極め、効果的により多くの参加者に刺激のある学びを提供するプログラムを遂行した。 ・外国人留学生と日本人学生が学生スタッフとして、企画・運営・ファンリテーション等を協働して行う組織を充実させた。(在籍学生スタッフ・16か国42名) ・地域の方や海外の方と加盟校学生が一緒に学び、交流する機会を創出した。			

- |  |   |
|--|---|
| ■自己評価基準(対到達目標)<br>4:当初計画を上回って達成<br>3:当初計画を達成<br>2:当初計画をやや下回った<br>1:当初計画を下回った | ■自己評価基準(対継続性)<br>4:本プログラムは継続すべき<br>3:本プログラムは継続しても良い<br>2:本プログラムの継続には改善が必要<br>1:本プログラムは中止すべき |
|--|---|

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	
------------------------	--

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組2-1)】

【⑤取組2】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)
【⑤取組2】活動指標	プログラム数10件以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進		
達成目標【⑤取組2-1】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)		
課題を解決する取組概要【⑤取組2-1】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 「学生海外派遣プログラム」		
活動指標【⑤取組2-1】	プログラム数10件以上		
内容(結果)	<p>日本は、衛生面・医療面で世界的に恵まれているが、国外において自らが体験することで医療に対する国際感覚を高める。習慣・文化・社会が日本と大きく異なる国への訪問を通して自国の状況を客観的に判断可能になり、海外から学ぶべきこと、また、海外で貢献できる点を理解し、問題解決能力を養う。</p> <p>【実施内容】 ○医療検査コース(対象学科:臨床検査技師や栄養士など医療系学科) アメリカ(ボストン) :病院、バイオテック企業、大学研究室などへの訪問。 医療検査の知識を発展できる施設でのインタビューを通じた見学研修 ネパール(カトマンズ) :病院、研究所、医療系大学等へ訪問、水質調査、微生物検査、衛生環境の調査など、フィールドワークを主とした内容、現地医療系学生との交流 ○看護コース(対象学科:看護師養成系学科) アメリカ(ボストン) :世界トップレベルの病院、大学研究施設、ホームレスクリニック等へ訪問。 視野を広げる 研修 ネパール(カトマンズ) :現地病院やヘルスポストなどへ訪問。住民の健康状態の調査などフィールドワークを主とした内容。現地医療系学生との交流</p> <p>【開催時期】 2022年度冬期、もしくは、2023年度春期(予定) ※コロナウィルス感染症の状況により開催時期を決定</p> <p>【募集人数】 各コース各国若干名 【費用】 アメリカ32万円、ネパール20万円(目安の金額。為替、航空券代金によって変動あり) 【引率者】 神戸常盤大学教員 各コースごとに1~2名 【その他】 事前および事後研修への参加が必要(場所:神戸常盤大学) ※ コロナの影響を鑑み、研修内容が変更になる場合があります。 【事前説明会】 渡航が決定すれば説明会を開催予定</p>		
新しい試み等(事業計画に記載)			
事業収支	収入 50,000円	支出 -	収支 備考

自己評価	【対到達目標】	-	【対継続性】	4
	・新型コロナウイルス感染症影響で3年続けて、見送りとなったが、コロナ禍が落ち着いた段階で再開予定			

- |   |  |
|---|--|
| <p>■自己評価基準 (対到達目標)</p> <p>4:当初計画を上回って達成<br/>3:当初計画を達成<br/>2:当初計画をやや下回った<br/>1:当初計画を下回った</p> | <p>■自己評価基準 (対継続性)</p> <p>4:本プログラムは継続すべき<br/>3:本プログラムは継続しても良い<br/>2:本プログラムの継続には改善が必要<br/>1:本プログラムは中止すべき</p> |
|---|--|

理事会からの改善提案(次年度事業計画に反映)	
------------------------	--

【2022年度 国際交流委員会 事業報告(取組2-2)】

【⑤取組2】達成目標	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)
【⑤取組2】活動指標	プログラム数10件以上

課題⑤	外国人留学生と日本人学生等の交流促進			
達成目標 【⑤取組2-2】	本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上 (期間中2回測定)			
課題を解決する 取組概要 【⑤取組2-2】	加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 「模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))」			
活動指標 【⑤取組2-2】	プログラム数10件以上			
内容 (結果)	<p>世界で最も権威のある「模擬国連世界大会(NMUN)」を、2022年11月に神戸市外国語大学が主催校として実施するにあたり、海外から集まった学生らと交流を図る貴重な機会として生かすため、「模擬国連世界大会演習」科目を2022年度後期に設置し、履修者を募集する。</p> <p>開講期間 8月8日～12月5日(15コマ)                  募集人員 20人                  開講場所 神戸市外国語大学                  参加要件                  (1) 授業はすべて英語で行われるため、TOEIC800点同等以上の英語力があること。                  (2) 模擬国連世界大会神戸大会(11月23日～27日)への参加を必須とし、同大会参加(宿泊)費として神戸市外国語大学の受講生は1名5万円程度を、他大学からの受講生は1名7万円程度を自己負担すること。</p> <p>参加大学：神戸市外国語大学、兵庫県立大学、神戸学院大学</p>			
新しい試み等				
事業収支	収入 0円	支出 0円	収支 0円	備考

自己評価	【対到達目標】		【対継続性】	4
	11月23日～27日の模擬国連世界大会神戸大会に向けて、8月6日から講義実施中			

■自己評価基準  
(対到達目標)

- 4: 当初計画を上回って達成
- 3: 当初計画を達成
- 2: 当初計画をやや下回った
- 1: 当初計画を下回った

■自己評価基準  
(対継続性)

- 4: 本プログラムは継続すべき
- 3: 本プログラムは継続しても良い
- 2: 本プログラムの継続には改善が必要
- 1: 本プログラムは中止すべき

理事会からの 改善提案 (次年度事業計画に反映)	
--------------------------------	--

2022年度 国際交流委員会 事業予算

(単位:円)

	予算	各プログラム 予算						委員会 予算	
		取組1		取組2-1		取組2-2			
		兵庫国際交流会館における 国際交流拠点推進事業 (JASSO受託事業)		学生海外派遣プログラム		模擬国連演習(NMUN(National Model United Nations))			
		内訳	予算額	内訳	予算額	内訳	予算額		
収入	会費収入	150,000			50,000				100,000
	助成事業収入	0							
	受託事業収入	9,625,000	JASSO受託事業収入	9,625,000					
	プログラム収入	0							
	雑収入	0							
	戻入金	0							
	計	9,775,000		9,625,000		50,000		0	100,000
支出	会議費	80,000	会議費	8,593					
	旅費交通費	1,300,000	旅費	50,980				旅費交通費	
	通信運搬費	60,000	郵便、通信費	72,418				通信運搬費	
	消耗品費	50,000	消耗品費	4,719					
	新聞図書費	10,000	新聞図書費	3,060					
	印刷製本費	50,000			パンフレット制作費	0			
	光熱水料費								
	賃借料	95,000	賃借料	0				賃借料	
	保険料								
	謝金	1,161,000	諸謝金	552,104					
	租税公課								
	支払手数料	22,000	振込手数料	18,598					
	諸会費								
	委託費		HP制作費・業務委託	132,000					
	人件費		コーディネーター	4,310,032					
	接待交際費								
	支払支援金								
雑費									
計	9,775,000		5,152,504		0		0	0	

収入-支出 4,622,496 (11月時点)